2008年9月1日発行（毎月1回1日発行）第19巻9号通巻222号　1991年1月8日第三種郵便物認可

たたかう労働運動の新たな潮流を！

月刊

交流センター

2008
9

□動労千葉労働運動の地平を土台に11月1万人結集、
ストライキを労働者階級の根底的要求にしよう
代表運営委員　辻川慎一

□11月労働者集会1万人決起へ！
青年労働者、国鉄、全逓、自治体、
闘う合同・一般労組、教労

全国労働組合交流センター

1900人が結集した8・6ヒロシマ大行動

月刊 交流センター 2008年9月号 No.222

目次

◉労働者の目　すべてを11月1万人労働者集会の実現へ！……1
◉動労千葉労働運動の階級的地平を土台に11月1万人結集と
　ストライキを労働者階級の根底的要求にしよう！
　代表運営委員　辻川慎一……2
◉11月労働者集会1万人決起へ！
◉青年労働者……7
◉国鉄労働者……8
◉郵政労働者……10
◉自治体労働者……11
◉闘う合同・一般労組……12
◉教育労働者……14
◉ひめじょおん―女性部から
　労働学校の力で、11月労働者集会1万人結集へ！……16
◉労働学校に民主労総ソウル本部が参加……17
◉労働ニュース……18
　●トヨタ、非正社員削減広がるなど
◉国労5・27臨大闘争弾圧刑事裁判……20
◉11・2全国労働者総決起集会への賛同と参加のお願い……22
◉たたかう俺たちが支部執行部だ……24
　●マンガ

労働者の目

すべてを11月1万人労働者集会の実現へ！

岩本　正治
全国労働組合交流センター
事務局長

全国の交流センターの仲間に訴えたいことは、08年前半決戦において6・29サミット粉砕闘争で切り開いた団結したエネルギーを、11月1万人実現の糧として2ヶ月間全力で闘おうということです。とりわけ、東京をはじめ首都圏の交流センターが、主体的に先頭で担おうということです。

6・29闘争では、老壮青の労働者・学生が一つになって団結し、国家権力の規制をはねのけ、機動隊と激しく衝突するデモをし、「こんなデモ初めて」「権力なんか団結があれば恐れることなどない」「もっと力をつけよう」と、心の底から感じたと思います。その怒りや思いを職場地域での闘いのエネルギーとして、1万人結集を実現しようということです。

そのためにも、08年前半主体的に切り開いた地平にあらためて立ちきって、すべてのセンターの仲間の総決起体制をつくりあげ、地域交流センター・産別部会全体の方針と一人ひとりがこれで勝負するという活躍の場をつくりだし、11月1万人集会の実現で時代を動かし勝ちに行こうではありませんか。

8・6ヒロシマ大行動

帝国主義の戦後世界体制の崩壊が予測を超えたスピードで進行しています。アメリカ帝国主義の延命策としての「新自由主義」が革命情勢を生み出し、サブプライムローンの破綻を契機に世界金融恐慌とコントロールできないインフレの爆発として激しく進んでいます。福田政権は政府発表の8月月例報告で、「景気後退」を発表し、日本でいちばんボロ儲けしているトヨタは、最も稼いでいる北米市場で利益が99％減。またまた、中国バブル崩壊前夜という中で、日本経済の生命線である、北米・中国市場が壊滅的危機にはいり、日本帝国主義も凄まじい危機に突入したということです。そして、その危機突破はわれわれ労働者階級への矛盾のしわ寄せとしての賃下げ、首切り、生活破壊の凄まじい攻撃です。

今こそ階級的に団結して立ち上がることを職場、地域の労働者に真っ向から訴えよう。労働者1万人の力で福田政権を打倒しよう！

動労千葉労働運動の階級的地平を土台に11月1万人結集とストライキを
労働者階級の根底的要求にしよう！

全国労組交流センター代表運営委員　辻川慎一

2月総会の事態の核心問題

2月総会から今年の闘いがスタートしました。ここで関西の松田常任委員が執行部の席から異議を唱える事態が発生し、全国の代議員や傍聴者から徹底弾劾されました。

問題の核心は、関西合同労組内の一部執行部や松田が、動労千葉労働運動の勝利の地平を今こそはっきりさせて闘い抜くことに反対だということです。彼らは、動労千葉はあくまでも一般的な戦闘的労働組合で、たまたま中野さんという指導者がいてできた労働組合であって、動労千葉労働運動を基軸に日本階級闘争や労働運動を進めることは間違いだと言っているのです。彼らには、中野さんを信頼してクビを覚悟で闘い抜いた組合員―労働者の存在が見えていない。

そもそも交流センターとは、国鉄分割・民営化を受けた総評解散に対し、連合でも全労連でもなくて、この死闘を勝ち抜いた動労千葉の地平で日本の労働運動・階級闘争を根本から転換していくんだというところでスタートしている。国鉄分割・民営化攻撃に対して動労千葉が40人の解雇者を出しながら唯一ストライキで闘い抜き生き残ってきた。ここに日本労働者階級の勝利性があるのです。特殊性の中に普遍性がある。

以後20年間ＪＲ総連革マルとＪＲ資本が結託して、国労や動労千葉解体のための激しい攻撃で襲いかかった。動労水戸にも凄まじい団結破壊攻撃がかけられた。この攻撃に勝ち抜き団結を守り抜いて、もはやＪＲ資本がもうどうしようもないという段階に到達した。この地平に踏まえて、昨年千葉も水戸も分割民営化体制に対する勝利宣言を発し、「第二次国鉄決戦」を宣言し、ＪＲ資本と非和解的に闘う中で新たな組織的展望を切り開こうとしている。他方ＪＲ総連革マル・松崎一派は、革マル本体と分裂し、さらに島田派と分裂している。資本との結託の中に自分たちの展望を見いだそうとした訳ですけれども、もうそんなことは成立しない。必然的に利権をめぐって分裂した。それもふくめて完全に勝利したと宣言したのです。

日本における新自由主義攻撃の最も鋭い切っ先として分割民営化攻撃があり、これを打ち破ったところに最も核心的な地平がある。動労千葉は、世界の新自由主義攻撃の中で真っ向から闘い抜いてこれを打ち破って勝ち抜き団結を守り抜いて、今日なお存在している。この意味でも希有な存在なわけです。

動労水戸をつくって分割民営化反対で闘ってきて20年間の僕自身の教訓でもあるんだけど、今までの労働組合は労働者にモノをとってきてやる。だからモノをとれないのはダメなんだと。そういう考え方です。資本主義と同じように人間存在をものに置き換えているんだ。モノをとるためには資本や当局とつながらなきゃいけない。だから協会派であれ共産党であれ革マル派であれ、当局とどういうパイプを持っているか。他よりいい成果を取る。その成果をもって自分の所に集める。こういうスタイルなんですよ。だから表向きにはものすごく戦闘的に振る舞ったりするけど、実はそれはあくまで当局・資本あっての存在なんですよ。

分割民営化攻撃は資本、資本主義体制の側がこれまで通りやっていけないという中で起きた。だから根本的にはこれまでの労働組合とのパイプもぶった切るものだった。だけど実は国労と動労の対立なんかを使って、こういうふうにすれば動労はこれを呑むだろう、分割民営化に協力すればあんたのところのパイプはキープしてやるよって誘った。動労千葉以外の労働組合はそれに乗っかって組織を残そうとした。そういう構造なわけね。

ゼニカネのために労働組合に入ったり、労働組合を利用できるんじゃないかというのはもろくて通用しない。モノ・カネなんか取らなくても頑張り抜いている労働者がいて、その人たちが動労水戸の労働組合を最後までぶれないで守り通したという経験があった。

動労千葉が動労革マルとの分裂、そして分割民営化との闘争以来、何をあの死闘の中で残してきたのかといったら、ゼニカネには引き替えられない労働者の団結ということなんですよね。そこのところが松田らは全然分かっていない。

労働者階級は革命的存在

戦後労働運動というのは例えば戦後革命期というのがあって日共の指導で敗北していく。その後の過程は60～70年代をとおして、その当時戦闘的だった労働組合の体制内化がはかられる。組合指導部をどんどん体制内化させて分裂させていく。闘う勢力を少数に追い込んでいく。日本の労働運動の指導部は、社会党であろうと共産党であろうとそのほかの諸派であろうと、みないろいろなことを言っていたけど、結局問題の核心は〈労働者階級は革命的であるかどうか〉ということなんですよ。はっきりしているのは松田らのグループに至るまで根っこでは労働者階級は革命的ではない、革命的階級ではないと考えているということなんだ。

われわれは国鉄新潟闘争にものすごい日本労働者階級の戦闘性を見て取った。われわれだけがそこに戦闘性を見た。そこからわれわれの運動が始まっている。ハンガリア革命だとか六全協とかスターリン批判とかもあったうえで根本的にはそこです。われわれが他の勢力と違うのは、労動者階級というのは労働者階級であるがゆえに革命的なんだ、革命を秘めてるんだという思想。そこで勝負するかどうかの問題なんです。

新自由主義攻撃が全面化してモノなんか取れない段階に入っている。今までみたいな資本との関係では何も取れない。資本も余裕ないから何も渡さない。そうするとその中でモノを取ることを追い求めたって何もならない。破産必至です。にもかかわらず資本にすがることに展望があるかのように思ってる。

08年前半、まだまだ少数だけれども青年労働者・学生を先頭にした労働者がわれわれの周辺にどんどん結集し始めている。労働者の団結した闘いの中にだけ展望がある。それ以外のところには何の展望もない。その地平にわれわれだけがはっきりと到達している。

今最も必要なことは労働者階級の存在そのものの中に革命が隠れているんだということをはっきりさせることです。

例えば『賃労働と資本』や『資本論』などマルクス主義を学習してきたけれども、これは社会党だって共産党だってやってきた。

マルクスは「資本主義社会は労働者階級を形成しないと成り立たない」と言った。労働者を働かせる中でしか新しい価値だとか利潤だとか生まれてこない。剰余労働、不払い労働によってのみ増殖できる。だから強制的に労動者階級をつくってそれで資本主義は立ち上がってきた。労働者は、商品経済の中で生きるために否応なく労働力を売らなければならない。賃金労働者として自分の生命力の発露である労働力を売って働く。人間であるにもかかわらず自分を商品として売って働かざるを得ないということの中に、根本的怒りがある。しかも、資本間の増殖競争だとか、相互打倒の競争だとかで絶えず不払い労働が際限なく拡大されていく。新自由主義によるグローバリゼーションによって、世界の労働者階級が相互に競争させられるという構造に入っている。競争と搾取が極限的に展開されている。

労働者というのは資本主義そのもの、資本主義社会そのものなんですよ。だからマルクスは〈労働者の存在そのものの中に資本主義を根本から打倒する内容があるんだ〉と言っているのです。「資本主義の墓堀人」とはそういうことなんです。

労働者に対して「あんたたちが社会の主人公なんだ、だからもっとがんばれ」と。極端なこと言うと「何だらしないことやっているんだ」という展開の仕方をする傾向がある。労働者階級の存在そのものの中に革命が隠れている、墓堀人としてのものすごい存在が隠れているというのではなくて、外側からおまえたちに教えてやるという感じになる。体制内労働運動はそういうあり方がマルクス主義的であるかのようにずーっと言ってきた。

体制内は労働者階級を低め続けた。例えば民間がどんどん分裂していくと民間労働者はダメで、分割・民営化では官公労労働者もダメなんだと。基幹産業労働者の闘いに絶望したところで未組織労働者の組織化を主張する傾向。共通して同じなのは労働者階級の存在の中に革命があるという見方を取れない。資本主義と体制内が現象的に強制しているものなんだけど、その直接性をみてダメだと思っている。これが松田勲だとかあの一

派だということなんですよ。

11月1万結集実現の核心問題

08年の前半の地平は、2月総会で交流センターは動労千葉の地平で断固闘うとはっきりさせ、3・16のワーカーズ・アクションから6・29までぶち抜いた。それがものすごい力ある、生き生きとした闘いができることを実証した。そして全国全世界に党派選択の問題を鮮烈に突きつけた。この資本主義最末期の新自由主義攻撃の全面化の中であれだけ生き生きと、あらゆる弾圧を恐れないで千単位の部隊が登場して闘い抜いたことは、われわれの予想以上の階級的影響力を行使している。ところが労働者が周りに近づいてきていることにわれわれが気づいていないという問題がある。また、共に立ち上がり始めた労働者の中に革命があるんだと見据えて、彼らの闘いをさらに決定的に発展させるのではなくて、方針を上から垂れ流しするような形でぶつけていくようなあり方がある。それが彼ら自身の自己解放的な決起に対して逆に桎梏になっている。こういう構造を突破することだ。

ここには交流センター運動の根本的強化の問題があり、11月集会1万人結集の根本的問題、来年09年春闘をどう闘うのかの問題がある。09年はものすごい過程になる。11月1万人結集は階級の外側から脅迫的に語られる問題ではなくて、11月集会1万人結集を労働者階級自身の要求にしたときに1万人になる。1万人結集は労働者階級自身が切り開くんです。われわれも階級と共にたたかう一員ですからわれわれ自身の要求、方針になったとき1万人はいく。1万人いったら来年の春はものすごい闘いができる。そういう行動だということを是非とも確認したい。

11月をとりまく激動情勢

時代や情勢をなぜ分析するのか。その主体は自分自身であり労働者階級自身だとはっきりさせるために情勢分析をやる。その意識性のない、それと全く無関係の客観的な情勢分析が展開されるのは間違いです。この間接している青年たちは、情勢の提起をただ聞いていません。聞きながら、いかに自分たちは闘うべきかを考えながら聞いている。だからいろいろな話をする時にはものすごい緊張関係がありますよね。彼らは本当に勝ちに行ってる。自分たちが本当に情勢の主体として資本主義を打倒するんだ、勝つためにはどうするのかと考えてものすごくどん欲に聞いている。逆にそういう提起でなかったらあっち向いて「そんなの関係ねえ」という感じだ。

洞爺湖サミットは、世界金融大恐慌情勢の中で国際協調が全くできなくなった。これは歴史的なことです。それに続くWTOの決裂問題も歴史的なことです。もうひとつは6～7月期決算が出て、トヨタの北米市場の収益が98・6％ダウンした。同時に日本全体の貿易収支の黒字が86％減したということが出されている。貿易の主軸がアメリカから中国に移ったと。中国が今、日本の貿易先のトップです。ところが中国があるから大丈夫だということはない。中国自体はアメリカに対する貿易で成り立っているわけで中国市場の崩壊も目前です。そうすると貿易収支の黒字86％減なんてレベルではすまなくなる。日本の資産というのは何でもっているのか。ドルでもっている。政府系住宅金融公社フレディマックとファニーメイの崩壊もものすごい大きい。ドルが完全に暴落する情勢に入っている。日本は資産があるから大丈夫なんだといっても、その資産そのものが瞬く間に紙くず化していく。日帝資本にとって恐るべき情勢に入った。

ロシアのグルジア侵攻が始まっている。グルジア戦争がカスピ海油田の権益をめぐってパイプラインをグルジアに通した場合、ロシアを通らないルートができちゃう。そのことをめぐってアメリカとロシアが暗闘してきた。それがついにグルジアでの戦争になった。これは一時的に休息しても終わらない。世界金融恐慌情勢の中でのグルジア戦争の勃発です。カフカス地方は歴史的には、第1次世界大戦が起きたバルカン半島以上のものすごい民族と宗教のるつぼで、この戦争に周りの国々がどんどん入ってくる可能性がある。それをめぐって国際帝国主義がどんどん入ってくる。まさに世界戦争になりかねない戦争が始まった。グルジア戦争は重大な情勢です。

トヨタの北米市場の崩壊は、トヨタの中での首切りにストレート

に転化している。九州などで数百人規模で首切りが始まっている。首切られているのは派遣労働者ですよ。日産やキヤノンや日立も同じでしょう。最初はどこどこの関連会社を全部丸ごとつぶす。そこの正社員はさしあたって残っている企業に配分して、派遣労働者を切る。こういう分断の構造で首切りが始まっている。米市場の崩壊は日本帝国主義資本の根幹部分のものすごい危機です。だから派遣労働者の雇い止めで終わるなんて情勢ではない。

今秋決戦の基本的階級構造

今年の11月はこうした激動情勢の中の11月です。資本の全面的な危機が階級に対する猛然たるしわ寄せの攻撃として襲いかかる情勢の中での11月です。09年春の闘いは間違いなく労働者階級の、特に不安定雇用にされている4割の層、2千万人の青年労働者の層を直撃する。これに対してどうするのか。ここで反撃の展望をこじ開ける。これが11月集会の決定的位置です。

この秋の闘いという場合、福田政権の未曾有の景気後退の中のすさまじい危機です。来年の予算をめぐって、支配階級が分裂している。赤字国債を抜いた収支を黒字に持っていくんだ、それが至上命題なんだとか言っていたが、そんなこと言ってられない、バラまきの大型の財政やらなきゃどうしようもないと自民党の中からも公明党の中からも出てきて、それ自身がさらに危機に転嫁していく。そんなことやってどうにかなるほど今の危機は浅くない。展望がない。

しかし福田政権は、社会保障費2200億円削減と公務員削減、公務員攻撃をやることだけは明確です。200万公務員労働運動をぶっつぶす攻撃と2000万青年労働者、派遣労働者、不安定労働者に対する攻撃が一体となって襲いかかっている。

公務員の秋期確定闘争の位置が決定的です。人事院勧告をめぐる闘争は民間でいう春闘ですが、実は11月集会と秋期確定闘争が対立的に語られてきた。体制内的あり方です。公務員だってものすごい労働強化がされている。それこそ病気やノイローゼになる人がバタバタでるぐらいこき使われながら、しかも賃金は毎年下げられている。だから労働強化による時間あたりの賃金目減りはものすごい。この秋期確定闘争を前に人事評価制度のなし崩し導入が始まっている。人事院の賃金据え置き勧告は、公務員を今団結して立ち上がらせないためのペテンなんです。教労と自治労を焦点化する。ここにゼネストの芽がある。その予兆は出ていて今年の春闘集会には青年がものすごい集まっている。怒りが深いんですよ。どこかでストライキがあった場合、燎原の火のように立ち上がる情勢がある。

ストライキ、ゼネストを現場労働者、青年労働者の要求や怒りとして闘いとるのではなくて、実際の現場労働者と関係ないところからストライキをいかに実現していくかと戦術主義的に考えたら絶対にいかない。各産別部会や地区で今議論するとそういう方向になりがちじゃないか。それではストライキなんていかない。それでは当局や体制内のペテンに勝てない。ストライキというのは現場労働者の中にある。そのことに徹底的に依拠して闘うことです。ストライキは必要だしそういう情勢は来ているし、怒りは深い。それを現場労働者が自分自身の要求にしていく。そういう闘い方が求められている。

青年労働者は派遣労働者の首切りに対して徹底的に団結して闘っている。時給を上げろとか雇用期間を一定期間延ばすとか、そんなことでは何も根本的には解決しない。派遣労働者の一番の問題は、極限的に分断されて労働者としての誇りが持てないということです。労働者は労働することの中に限りない誇りと執着を持ちながら存在している。だけど派遣労働者は、労働者としての誇りが持てない。そこに根本問題がある。だから本当に必要なのは団結だということですよ。派遣労働者の中に団結を創り出したときには闘争が可能です。どうせ3カ月だとかで雇い止めにされるんだったら生産現場を握っている間に闘って首を切られた方がいいとなる。ところがそう腹をくくって闘ったら簡単に首を切れない関係を強制することができるんです。僕らも派遣労働者が労働問題で相談に来るとあまりにも過酷だからそれに対してどうしたらいいかとまず考えちゃうんですけど、解決してやるという

ことではないんですよ。一緒になって団結して闘うことです。闘ったら絶対展望が切り開かれる。

国鉄決戦を土台に公務員決戦を

この秋の闘いは自治労と教労と青年労働者、これがどうなるかが決定的です。自治労決戦をどう闘うかという場合、動労千葉の田中委員長が2月の国鉄集会で打ち出した第2次国鉄決戦論の提起が重要です。1047名闘争とは何か、分割民営化決戦とは何かというところから説き起こして20年間の分民攻撃を打ち破り、勝利したと。今、自治労決戦、教労、全逓も含む、その土台は、動労千葉の闘いにあります。分割民営化反対で2波のストライキを現場労働者の怒りの決起をつくりだしながらぶちぬいた闘い。そこに唯一階級としての活路がある。ここに今こそ各産別の会員が立脚してやれるかどうか。動労千葉の労働者観、闘い方を貫いて闘い抜いた時にのみ展望が開かれる。

第2次国鉄決戦は、1047名闘争の解体攻撃との闘いとしてもある。この解体攻撃は間違いなく公務員攻撃と一体の攻撃です。国鉄闘争に終止符を打つという階級的攻撃です。所詮闘ったってこうなるんだと、国鉄闘争を基本的に支えてきた自治労の労働者に刻印する。今の公務員攻撃と闘っても結局こうなるんだと階級的恫喝を加えようとしている。

だからわれわれはそれに対して動労千葉の地平、5・27の地平、すなわち1047名闘争とは分割民営化絶対反対で解雇撤回だ。このことをさし当たってどんなに少数であっても貫くということです。この中に展望がある。5・27裁判をめぐる弁護団解任の問題でもはっきりしているのは旧弁護団のあり方が闘う労働者、被告が主体ではないということ。これをぶっとばさなければ行けない。それでは1047名闘争解体攻撃と闘えないということなんです。被告たち労働者が、4党合意に反対し誇りに賭けて闘ったということをずっと低め続けてきたあり方を許してはならないのです。

第2次国鉄決戦をベースに据えるということは、動労千葉の闘い、国鉄決戦が1047名解体情勢を打ち破り、平成採を獲得して新たな主流派としてこの半年、一年の間に飛躍することを土台にして公務員決戦も決定的に飛躍させるということです。国鉄決戦をめぐる闘いが、階級を失望させるか元気づけるかの鍵を握っています。特に公務員労働者の闘いを勝利に導くか敗北させるかの土台になっている。

全会員の力で1万人結集を

こうした基本的な階級構造をはっきりさせたうえで各地方、各産別でそれぞれの特色、持ち味を生かして闘うということです。階級全体を取るための戦略・方針が必要です。その下で今ある会員の総決起を作り出せるか否か、そういうところに勝負がある。

なぜ分裂をめぐって議論してきたのか、松田らのグループとこれだけやりあってきたのかといえば、われわれは階級、労働者と本当に結びつくための闘いとして彼らを批判し、彼らが脱落していったのだということです。あいつらを批判だけしていたらすむということではない。僕らが階級と本当に結びつく。もっと言えば11月に1万人集めることで決着させるんだということです。あらゆる反動が11月集会をめぐって集中してきている。だからこそ、今階級にとって必要なのは1万人集めることなのです。自分たち自身の力で1万人集めること。そしたら09年にも勝てる、革命できる気になる。

センターの指導的な人たちに訴えたい。元気がない会員がいたとして、その人にあれがない、これがないというのが指導者ではない。資本主義は商品的価値基準を人間に適用するから人間をダメにする。生まれてきて一切無駄な人間なんかいないんだというのがプロレタリアートの考え方です。我々の闘争とは、人間を低める者との闘争です。この1カ月ちょっとの過程で交流センター会員全体がひとりの例外もなく自分がやることをはっきりさせて生き生きと闘う。あえて言えば、苦手なことはさしおいたって得意なことをどんどんやってもらえばいいんです。11月1万結集のプロセスに参加できなかった。負い目を追いながら11月を迎えるなんて人は誰もいない。そういう状況を切り開けたら11・2の1万人結集は絶対に実現できると思います。これは、6・29の核心的総括でもあるのです。

11月労働者集会1万人決起へ！
8・5青年労働者交流集会報告　〝ガンガン〟に職場闘争を

11月労働者集会1万結集へむけた青年労働者の総決起が始まっています！　8月5日に開催された「オキナワとヒロシマを結ぶ全国青年労働者交流集会 in HIROSHIMA」は、青年労働者を先頭に500人の大結集でかちとられ、職場闘争の報告と11月1万人結集へむけた決意が語られました。

●〝ガンガン〟に職場闘争

「11月1万人集会へむけてガンガンにもりあげてきましょう」の司会のあいさつから始まった青年労働者集会。6・29サミット粉砕闘争で得た「1万人のこの団結があればなんでもできる」「絶対に1万人結集をかちとりたい！」という思いをバネに、職場で資本の支配をくいやぶる闘いが進んでいます！

「動労千葉に青年部をつくる！」と宣言したのは、動労千葉の平成採の青年労働者。

橋下知事と対決する大阪の自治体労働者は、「査定昇給絶対反対で体制内執行部を打倒する」と決起しています。体制内現執行部が、彼を役員選挙に立候補することさえ禁止している。しかし、そんなことは関係ない。「誰が本物の闘う執行部か、実力で立会い演説をやる」

まさに、日本の階級闘争の最先端攻防の職場で革命的な反乱が始まっています。

司会の中四国の福祉労働者は、正社員を会社に要求したら、3日後に解雇通告。「カス、ストーカー、帰れ」と管理職に罵声を浴びせられるも門前に足を運び就労闘争に決起しています。「小さな職場の小さな闘い。けれども、これが世界を大きく変える闘いだ」と言い切っています。「全国に闘う仲間がいる」。だから「負ける気がしねえ！」

●体制内執行部打倒しよう！

基調報告に立った広島の教育労働者も、現場労働者を抑圧・分断する組合指導部を打倒すると力強く提起しました。「新自由主義は、全国・全世界の労働者に同じような攻撃をかけてきている。だからこそ、逆にみんな団結できる情勢。『君が代』不起立闘争は、侵略の歴史を悔いるためではない。労働者に差別・分断もちこむ国家・資本と直接対決し全国・全世界とつながる自己解放の方針だ」。

けれども、体制内労組指導部は、労働者には力がないと絶望感・敗北感をあおり、「心の反対」を言うばかりか、ビラ検閲など現場労働者を弾圧することまでやってくる。労働組合とは何なのか。「資本と非和解で闘い、現場労働者の団結にのみ依拠し、職場支配権を確立していく、これこそが労働組合だ」と基調ではっきりさせました。11月1万人結集を突破する壁は、まさに怒りを押さえ込める体制内労組幹部をぶっとばし、現場に労働組合を取り戻すことです。

●階級の指導部へ！

東京の全逓労働者は「ここに集まった仲間が2千万人青年労働者の結集軸だ。社会を動かしているのは労働者だ。1万人を超える労働者のデモで絶対に勝てる。福田をぶっとばすデモをやり、11月を闘い、ゼネストを」とよびかけました。

医療労働者は、6・29で示した一歩もひかない団結に沿道の青年労働者が合流してくる姿を目の当たりにし、「職場の労働者もその団結に加わりたいんだ」と確信しました。われわれこそが、労働者階級の結集軸になれると自信をもっていいきれるのです。

怒りはあふれています。広島の全逓労働者は、『かもめーる』自腹買取を拒否したら、隣の労働者も拒否したと報告しました。自分の怒りは全労働者の怒りです。これを本当に一つにしていくことが私たちの役割です。

青年集会は大成功を収めました。沖縄の青年労働者も新たな仲間をひきつれ結集し、「オキナワとヒロシマを結び」ました。何より、中四国の青年労働者が、職場闘争をやりぬき、団結を固め集会の運営・内容を牽引しぬきました。団結はますます拡大しています。この勢いで11月1万人結集へ攻め上ろう！

被爆63周年、第二次国鉄決戦勝利！　8・5国鉄労働者交流集会が圧倒的に成功
平成採の青年を先頭に、11月1万人結集へ猛然とスタートダッシュ誓う！

国労上野支部　吉野元久

8・5国鉄労働者交流集会は、地元広島の動労西日本組合員の多大な尽力で準備され、平成採の青年を先頭に全国から50数名が結集しました。

司会は、地元広島で動労西日本を組織する大江照巳書記長、そして国労5・27被告団で国労近畿地本奈良電車区分会の橘日出夫さんの2人が担当。開会の挨拶を受けて、集会は「動労千葉の闘い～国鉄民営化との闘い、06年安全運転闘争」を記録したDVDの上映（約15分間）で始まりました。

国労共闘の基調提起に続いて、3つの特別報告

「世界の労働者・民衆の団結で核と戦争をなくそう！」という、8・6ヒロシマ闘争のメインスローガンの下で開催された「被爆63周年・第二次国鉄決戦勝利！国鉄労働者交流集会」は、直前の7・30～31第67回国労全国大会闘争をぶち抜いて結集した国労共闘が、今回初めて基調報告を提案し、11月労働者集会1万人大結集に向かって猛然たるスタートダッシュを誓いました。

続く3本の特別報告は圧巻でした。まず、11月集会を主催する動労千葉田中康宏委員長の第1報告。第2報告は、国労5・27臨大闘争弾圧被告団長であり、国労近畿地本兵庫保線分会の冨田益行さん。そして鉄建公団訴訟原告であり、5・27被告でもある国労小倉地区闘争団の羽廣憲さんが、第3報告をそれぞれ提案。この3つが、一体となって全体を牽引する核心的な報告提起となりました。

労働者には無限の可能性がある！

動労千葉田中委員長は、冒頭のDVD上映に触れ、「労働者には無限の可能性がある。それを潰して回っているのが労組幹部。動労千葉は、当たり前のことを当たり前にやっただけ。悲壮感は微塵もない」とした上で、「全世界でストの嵐、農民も漁民もスト。われわれは21年前の原点に返って闘う」と切り出しました。そして、「分割民営化20年の決着を着けなければ、（政府は）２００万公務員首切りがやれない！　これが7・14東京高裁和解発言の核心だ」と第二次国鉄決戦突入の意義を鮮明に指摘しました。最後に、「11月集会に力を！」と訴え、「情勢は火をつければメラメラいく。それまでが大変。しかし核心は、分岐を生み出すこと、確信をもって訴える力をつけることだ」「生きさせろ！のゼネスト、第二次国鉄決戦、国際連帯が11月集会の目標だ」と1万大結集を熱烈に訴えました。

原則派と和解派の巨大な分岐が始まった！

第2報告は、国労5・27被告団長の富田益行さん。彼は、「5・27臨大闘争弾圧との闘いを6年間やってきて、本当によかった。ついに4者4団体と、動労千葉・国労共闘・5・27臨大闘争弾圧被告団が真ふたつになった。誰が見ても「どっちなんや」と。解雇撤回を投げ捨てた4者4団体、他方で、われわれは解雇撤回。JRと闘って解雇撤回をやるぞ、という勢力の分岐が鮮明になった。全国大会で、そのことが非常にはっきりした」と切り込み、今年2月の「旧弁護士解任」が「党派の介入」ではなく、階級裁判の原則を貫く「路線問題」であったことを熱烈に訴

えました。

第3報告は、国労小倉地区闘争団の羽廣憲さん。鉄建公団訴訟団の一員として大会に臨んだ彼は、「4者4団体の和解といわれますが、これが和解なのか。解雇者にとって落としどころとは何か。戻るか、戻らないか、100かゼロでしょ。（解雇撤回を）掲げ続けることが、国労の中では敵になる。私たち動労千葉派は、明確に敵なのです。そういう時代に入った。同時に、体制内派との決別をわれわれがやりきってきたから、こういう分岐を作ることができた」と胸を張って報告し、自らが「階級の指導部になる」宣言を発しました。

全国国鉄労働者交流集会

交流集会＝平成採の青年がはつらつと決意表明！

全国被爆者青年同盟の小林さん、そして全国統一実行委員会の三角代表から、「昨年は安倍を倒した。明日は福田政権を倒す！」という早朝デモへの決起の訴えを受けて、いよいよ参加者全員による自由討論に移りました。

自由討論の先陣を切ったのは、国労東京地本八王子支部の中村さん。全国大会闘争の報告を、怒りを込めて展開し、ライフサイクル深度化に怒る青年とともに「権力と闘う」と訴えました。

続いて動労水戸からは、「11月を最大の集約点として闘ってきたが、青年達と組合員の壁があった。支部ごとに団結し、職場闘争を闘う」と木村書記長。また動労西日本大阪支部は、尼崎事故以降毎朝点呼時に、「すべての責任は社員にある」と言わんばかりの「黙祷」を強制するJR西日本を弾劾した。

集会参加の青年を代表して、動労千葉幕張支部の渡辺君（24才）が、「国鉄時代はなにも知らないが、これから勉強し、動労千葉青年部を結成します」と、はつらつとした決意が表明されました。今集会には、JR西日本の平成採らの青年が年休を取って複数参加しました。

引き続いて国労仙台地本橋本さんは、「JRに闘争団員の雇用先をお願いすべきだ。10・24日比谷1万人集会を最後に、有終の美を飾りたい」という全国大会での北海道闘争団代議員の発言を徹底弾劾し、「そもそも修善寺大会の総括から間違っている。1047名闘争論の再構築が急務だ。その核心は、平成採の中に国労をつくり、11月1万人結集にもっていくことだ」と熱烈に表明。さらに国労米子地本の入口さんは、「黙祷強要を許さず、尼崎・伯備線事故弾劾の先頭に起つ」と新たな決意を述べました。

限られた時間であったが、討論の最後を締めくくったのは、1047名の当該である動労千葉争議団の中村執行委員でした。彼は、「動労千葉は300名余りだが、1人のために全員がストで闘って勝利した。当たり前の闘いができる国労になってほしい」と訴え、11月集会の成功を自ら担い抜く決意を表明しました。

連日35℃を超える猛暑の中、特に平成採の青年達のはつらつとした結集をもって闘い、かつての原水禁・原水協運動を階級的労働運動路線の力で乗り越えた8・5～8・6ヒロシマ総行動を、11・2労働者集会1万人大結集に向かっての決定的な闘いとして打ち抜いたことを、改めて実感しました。

職場闘争を爆発させ、11月労働者集会1万人結集をかちとろう

愛媛松山　日野　亮

―全　遞―

郵政労働者交流集会は画期的な集会になった。

第一に、青年労働者を先頭に参加者が昨年より大幅に増えたこと。

第二に、3つの闘いの報告、基調報告、司会とすべてを青年が担った。

第三に地元広島が集会全体をけん引したことだ。

しかも闘いの報告のうちの2つと基調報告をした青年は昨年の8・6には、郵政の職場に入ってもなかった。

新仙台の鈴木君は、職場に入ってわずか1ケ月で雇い止め、最終日にはストライキで対抗し、その後も局前の情宣で労働者に訴えかけ、闘いを続け、これに仲間も合流。感動的な闘いを継続している。

岡山中郵の石岡君は、制服を支給しない会社に対して、「出せ」と要求。無視し続ける会社に業を煮やし、所属組合の宣伝の入ったジャージを着用し、仕事に出るという闘いを始めた。これに驚いた会社は、「ない」と言っていたにもかかわらず即座に制服の上着だけ持ってくる。その後、大阪の自治体の仲間から「団結」の大きな文字の入ったズボンが連帯をこめて贈られてきた。さっそく着用をして配達に出たところ大反響で、またも会社は大慌てで制服のズボンをはいてくださいと言って持ってきた、ということをユーモアたっぷりで報告した。

あっという間に職場で存在感ある運動を進める彼に対して、会社はささいなことで処分攻撃を開始し雇い止めを狙っている。これに対しては、交流集会参加者の総力を挙げて反撃していくことを確認した。

新東京では廃局攻撃に対して、超勤拒否、集会・デモを当局と体制内指導部に叩きつけ、新たな仲間の獲得と、強固な団結を作り、銀座郵便局移転後も元気に闘いぬいていることが報告された。

また広島では、作業日報の提出を拒否し闘いぬいていることが報告された。この日は基調報告、闘いの報告、この後の交流会の準備と、広島の仲間が最後まで責任を取りきった。

基調報告では職場闘争を全国で爆発させ、均衡破壊を進めよう。その中で青年労働者を獲得し、今年こそ11月労働者集会に1万人を集め、世界革命のスタートにしようということが熱烈に提起された。

青年の獲得が情勢を切り開く、郵政労働者はその先頭に立つ決意を固めきった。翌日の8．6デモを最初の実践として戦闘的に闘い抜いた。

8・5労働者交流集会写真

青年労働者交流集会

全国郵政労働者交流集会

教労集会で発言する根津さん

医療・福祉労働者集会

8・5自治体労働者交流集会　大阪自治体労働者による橋下打倒闘争の訴え

8・5自治体労働者交流集会は、全国から60名余の結集で勝ち取られ、11月1万人結集の先頭に自治体労働者が立とうと誓い合う場になりました。とりわけ大阪の青年労働者の発言が全体を牽引しました。以下、発言の要旨を紹介します。（自治体労働者部会事務局）

全国の自治体労働者の力で橋下を打倒しよう！　橋下の登場とは「資本主義が終わっている」ということです。革命が問われている問題です。橋下は知事になるや「大阪府は破産会社だ。だから半分が解雇とか30％賃下げとか当たり前だ。反対する労働者のけつを蹴り上げてやる」と言った。もうがまんならないという決起が3月の朝礼での青年労働者の決起から始まりました。

自治体労働者集会

日共系府労組連や大阪府労連は、大阪府は破産会社ではないのになぜ人件費を下げられなくてはならないのかという対抗をした。これはまったく対抗になっていない。だって、現に破産しているんですから。大阪府は5兆円の借金を職員の賃金チャラにして返したとしても、国と地方の1100兆円の借金は何にも変わらない。労働者がなまけたとか、さぼっているからではない。今の資本主義が破産しているんです。

橋下は、一握りの資本家階級が利益を拡大し、労働者を貧困に叩き込むために、資本家階級の意を受けて、登場してきた人物だ。だから、自民党や御手洗が支持している。橋下に破産した資本主義の延命の道を託そうとしている。だから、橋下との対決が、資本主義が終わっている社会を労働者の力で変えていく闘いです。

橋下はどうやろうとしているか。一つは民間労働者と公務員労働者の分断です。二つ目には自治体労働者の間の徹底的な分断と競争です。その大きな柱が人事評価です。あらゆる業務を民営化し、正規職員を非正規に置き換え人を減らす、大リストラを行なっていく。それをテコに道州制へ突き進む。今回、予算の大幅カットの例外が高速道路などインフラの補助金でした。道州制導入の時に州都になるために残したんだと言っています。

労働者の団結した力を信じるマルクス主義の立場で闘おう

現場の労働者の怒りは、6・20集会7千人の結集となった。僕は公然とストライキを呼び掛けてきました。団体交渉では決裂するしかない。そうしたらなめるんじゃないという闘いをやろうと。6・20集会に一斉に休暇を取って参加して事実上のストライキにしようとビラをまきました。人事当局から直ちに呼び出しを受けましたが、本当に当局はビビッています。知事がビビっています。労働者の力を彼らは恐れています。

ところが労働組合がそういう闘いを一緒にやるかというと、やってくれません。組合本部は「ストライキを呼び掛けたら処分される」「現場がついてこない」「ものが取れなくて、負けちゃう」「府民が敵に回る」。要は「自治体労働者が闘ったら負ける」と言ってくるので激突です。労働者の力を信じられないということに尽きます。

僕がつかんだことは、労働者の力を信じられない組合に対して、労働者の力を信じきる。労働者の団結に依拠できる、そういう団結を僕らの力でつくっていこう。これがマルクス主義の立場、革命の立場です。労働者の団結の力こそ、すごい力を持っているし、橋下がびびるし、世界を変える力になる。だから、あなたの決起、一人ひとりの存在が決定的な存在なんだと言い切れる。そういう闘いをつくっていくために一番重要なのは、自分自身が処分どう喝とか、組合員がついてこないんじゃないかという動揺を全部はらいのけて、労働者の団結にかけ切るという立場で絶対反対の闘いを貫く。本当に団結をつくっていくということだと思います。そういう闘いを夏から秋にかけてやろう。

11月1万人結集なら 5千人は合同労組で青年労働者を組織しよう

『8・5闘う合同労組組交流集会』が、8・6ヒロシマ大行動の関連企画として開催され、80名の結集で大成功した。例年をはるかに超える熱気と闘う気概にあふれる集会となった。春闘をストライキで闘いぬき新たな組合員を獲得した広大生協労働組合の中島書記長の司会のもと、広島連帯ユニオンの鈴木委員長の開会あいさつで始まった。

鈴木委員長は、結成19年目を迎える広島連帯ユニオンの闘いを振り返って、闘うユニオンが全国に拡大していることが、89年当時の結成が正しかったことを示している。『蟹工船』情勢、『秋葉原事件』情勢は青年労働者が闘う組織を求めているということだ。連合などが犯罪的な役割を果たしているが、闘うエネルギー・怒りを闘う合同労組がいかに組織していくか問われている。動労千葉の田中委員長が訴えているように、11月労働者集会1万人結集の実現と春闘ゼネストを、各地域のユニオンでの組織化の闘いを通して全国で闘おうと訴えた。

続いて、全国労組交流センターの小泉副代表が基調報告にたった。小泉副代表は、11月1万人実現にむけて自分職場でどう闘うのかをこの集会の獲得目標にしようと訴えた。『蟹工船』が140万部売れて、多くの若者に読まれている。その中で青年労働者は敵が誰なのかが見えないという感想文を書いている。6・29のデモで示したように、こういうデモや闘いがあること。労働組合が闘っていることを示すことだ。秋葉原事件の加藤青年は四トントラックが借りられていたら職場にトラックで突っ込むつもりだった。職場の仲間を11月集会に組織することを通して職場に組合や分会をつくろう。11月集会への組織化と職場での組合・分会作りは一体である。1万人結集なら5千人くらいは合同労組で青年労働者を組織しよう。その可能性は絶対ある。11月集会1万人結集を職場闘争で作っていこうと訴えた。また、関西合同労組本部派のように未組織労働者と四大産別の闘いを分断・対立させ、革命運動と労働運動を切断するような合同・一般労組の運動ではだめだ。動労千葉労働運動を学んで合同・一般労組の中に展開していくことが重要。動労千葉を支援する会で田中委員長が訴えているように、「生きさせろ」という賃金闘争、派遣法を撤廃するような闘い、ゼネストのような激しい闘いを職場の中で開始しよう。仲間を職場に作り、職場に分会を作って団結体を作ろう。地区労が解体されている中で合同・一般労組は地区センターの役割を果たし、青年労働者を組織しようと提起した。

各地からの報告では、職場の団結を基礎に資本と非和解に闘って11月1万人結集を実現する決意が相次いだ。

まず最初に特別報告として、関西合同労組泉州支部から、体制内の改良運動に転落した関西合同労組本部派との路線をめぐる闘いの報告があった（詳細は8月号参照）。革命をめざす勢力をつくるという動労千葉労働運動をあざ笑い、成果を取って組合員を獲得するという労働者自己解放とはほど遠い本部派のあり方を、「団結を破壊して組合員を地獄の道に引きずり込むのは絶対許さない」と怒りをもって弾劾した。「生きさせろ」の闘いをストレートに貫き、最初から社会を変える11月集会を提起して組合員を獲得していくと、組合再建の決意を熱く語った。

広島連帯ユニオン草津病院支部からは、労働相談型の組合から職場の青年労働者を獲得し労働者が職場で闘う拠点に変革してきた闘いが報告された。救済主義・代行主義・動員主義は労働者を獲得する闘いではないということをはっきりさせ、ともに革命をめざす仲間として青年労働者を獲得し組合員がいきいきと闘う組合を作ろう。11月集会に職場からの団結を作って参加するような運動にしよ

うと訴えた。

ちば合同労組からは、3度目の解雇に対して社前闘争・署名闘争で闘い、弾圧をものともせず職場の労働者に動労千葉労働運動で体当たりでぶつかって、組合員を拡大する闘いを行っている青年労働者が発言した。東京西部ユニオンからは、労働相談中心のありから職場で闘う組合に転換した闘いの報告が為された。西部ユニオン高栄運輸分会では新執行部を立ち上げて第3波の48時間ストライキを闘い団結を固め、玉新では分会結成を実現した。こうした闘いが青年部の活性化につながっている。

なんぶユニオンからは、「労働運動の力で革命を」の実現は職場生産点で仲間を増やすことからはじまる。外国人労働者とともに闘う合同労組、本土における沖縄闘争は職場闘争が基軸であり、労働組合の力で星野奪還をと訴えられた。東海合同労組からは、いままでのあり方を一掃して動労千葉派の合同労組を昨年9月に結成したとの報告。青年労働者が組合員宣言をし、すさまじい年休闘争をやって参加しているとの訴えがあった。11月集会に向けて自分が動労千葉派であることをはっきりさせて隣の労働者に広げていく決意が述べられた。福祉労働者連帯ユニオンからは、職場に組合を作ろうと、6・29に向けて職場ビラを作り自分たちが何をしたいのか訴えてきた。仲間をもう一人作るのは大変だが手応えを感じている。職場闘争委員会として北部地区の4組合が団結して一つになって革命を目指す集団をつくっていきたい。うるまユニオンからは、6・29での逮捕をめぐって『命を守る会』の体制内派との闘いになっている。「労働者に依拠して革命やる以外にどうやって新基地建設を止めるのか」とクビをかけて参加している。本当に勝利するには資本主義と非和解に闘うことだと仲間と徹底論議して闘う。「合同労組かながわ」の仲間からは、出向先から親会社にもどれという労働者を無視した強制配転攻撃に対して門前闘争を闘っている。原則を貫くことが労働者の怒りを結集する、必ず職場に仲間が作れることを確信していると報告があった。

また、職場闘争のあり方についての真剣な論議が行われた。物取りを目的とした争議屋的なあり方ではなく、職場闘争で職場に団結を作って職場支配権を奪い取っていくことを圧倒的に推し進めることが確認された。職場闘争を階級的団結をうち固める闘いとして闘い抜いている合同・一般労組の仲間が全国から結集し、11月1万人結集にむけてのあつい論議が闘わされた交流集会となった。この力が、被爆63周年の8・6広島の闘いを牽引したのだ。

集会後『オキナワとヒロシマを結ぶ青年労働者交流集会』に合流し、翌日は早朝より福田打倒、祈念式典弾劾の戦闘的デモと、例年広島連帯ユニオン主催で行っている反核反原発中国電力前座り込み闘争に決起した。そして、午後からの『8・6ヒロシマ大行動』は1900名の結集で大成功した。「労働者の団結で核と戦争をなくそう」と呼びかけられた被爆63周年の8・6ヒロシマは、「労働者の階級的な団結によって本当に核と戦争をなくすことができる」と、あらゆる参加者が実感することができる闘いとなった。労働者を分断し、核まで使って殺し合いをさせる帝国主義に対して、国境を越えた労働者の国際的な団結で闘おうと、ストライキやデモ・暴動で闘う世界の労働者・民衆との固い団結をうち固めた。3・16イラク反戦闘争、6・29G8サミット粉砕渋谷デモを引き継いで、08年前半の闘いによって階級闘争の大地に資本と絶対非和解に闘う軍勢がはっきりと姿を現したことを示した。青年労働者を結集させる合同・一般労組の任務はとりわけ重大だ。11月労働者総決起集会1万人結集を何としても実現し、革命的情勢を労働者階級の力で切り開こう。

広島連帯ユニオン

8・5　ヒロシマ教育労働者交流集会報告　さらにさらに団結固めました！

昨年の11月以来久しぶりにアーリーン・イノウエさんとお会いできました。あいかわらずの笑顔・笑顔。本当に明るい！　若い！　原則的な闘いを楽しんでいる人は若いのか？　彼女は、昨年11月集会の後、バス移動中に、私が2年間うつ病で休職していたことを聞いていたため、ずっと「KENJIは大丈夫なの？　来るの？」と心配してくださっていたそうです。（はい、今はみんなとの団結の中に生きているから元気です）

アイリーン　イノウエさん（8・6ヒロシマ大行動）

11月以後不起立者への支援をしてくださっていたお礼が言いたくてずっと会いたかった彼女との久しぶりの握手と挨拶。私はテレて緊張してしまい、練習していた英語は全然話せませんでした。

アーリーンさんは、私が発言を終える度、必ず目を合わせガッツポーズを送ったり、〝(You're) STRONG〟〝(You have) STRONG HEART〟と声をかけてくれました。でも、そんなじゃないんです…。

日々は、職場では管理職と、体制内組合内では幹部役員とぶつかり、自分の壁が越えられないときもあって、そして同じ思いをもつ同志がなかなか獲得できなくて悶々と苦しんでます。でも、仲間がほしい、全ての労働者とつながりたい、団結したいと思って必死で発言しました。だから、アーリーンさんが「去年の11月よりさらに団結が強まっている」「普通の労働者が（職場で闘い、それをもとに）発言しているのがすばらしい」とおっしゃっていたのを聞いてやったーと思いました。オレたちってやっぱすごいんじゃん。

今年の8・5、6で私たちはさらに団結を固め、この団結の力こそ戦争も核もなくす道だと展望が見えました。今もっと深くもっと広くもっともっともっともっと団結を求めている自分がいます。

私たちは根津さんのすごい決起と、米山さんの解雇処分に一歩もひかない決起、記者会見という形で団結した姿を社会に公開した河原井さんを含めて3人の決起。連日の都庁や学校への行動。そして、全国での不起立の拡大。是正指導で「不起立者を0」にしたい県教委の狙いの中、広島でもその狙いを粉砕し続けてきた不屈の不起立の闘いがあり、この春にさらに拡大した。

そして、アメリカや韓国・フランス・イギリスの労働者から「日教組への不起立支援要請」「都教委への不起立処分許さない抗議文」が送られた。そうした労働者階級の団結で根津さんの解雇を阻止した!!　団結したら勝てる!!

根津さんは「私の解雇を阻止したのは、いろんなところでいろんな動きをしてくれたから。だから、いろんな場で、不起立の闘いも含めいろんなことを起こせていけたらいい。それが日教組を変えていくことにもつながると思います」と言いました。闘う不起立者を排除・分断していく今の日教組幹部は「産業報国会」です。不起立で固めた団結の力で、日教組をつくりかえていこう！

河原井さんは「若者とつながれたら展望がある。きっと変わる」「がんばらない。（でも）あきらめない。つながりたい。楽しみたい」と。そうだ！　青年教育労働者が現場の矛盾や悩みを自己責任にして自分を責めるのではなく、これこそ「新自由主義攻撃」だと気づき、職場で闘い始めたらすごいことになる。学校現場も世の中も変えられる。正規・非正規、官民そして国境も越えて団結できる。一人で闘うのは苦しいことが多い。でも、つながって団結して闘ったら、どんどん楽しくなっていく。

管理職や教育行政のひどさを笑ってごまかすんじゃなくて、闘うことを楽しんで笑いたい。

全国の、そして広島の青年教育労働者のみなさん、いっしょに教育労働者の自己解放闘争（体制の鎖から自分を解き放つ闘い）「不起立」をしよう！　原爆を落とされたヒロシマ、是正指導を受けてきたヒロシマから、再度、戦争教育絶対反対・「上意下達」の軍隊のような学校現場絶対反対の「不起立闘争」を始めとする闘いをしよう。日々の殺人的超過勤務・やりがいのない様々な業務の強制・管理評価分断攻撃への怒りを「40秒間のストライキ」＝不起立で解放し、当局にぶつけよう。全教育労働者を非正規の不安定雇用化するための「免許更新制度」絶対反対・査定給ほか差別賃金絶対反対で「生きさせろ！」のゼネストの先頭に立とう。

不起立闘争から職場に闘う団結を取り戻そう！　なぜか。それは不当な職務命令・処分を恐れぬ闘いゆえに全国の労働者から熱烈な連帯を受けている闘いだから。一瞬で国際連帯しちゃうたたかいだから。不起立をすれば、新自由主義とたたかうすべての労働者と確実につながれる。そのための不起立なんです。侵略の歴史を悔いるためのお線香・お供え物の不起立ではない。自分がいつ差別者になるかわからないために、贖罪としてやる自己否定・自己疎外の不起立なんかでもない。そんな過去のためやブルジョアジーがわれわれ労働者に押しつけている枠組みの中での不起立じゃない。

差別・分断をしかけてくる資本・国家を、真正面から許さず追いつめ打倒していく闘いとしての不起立なんだ。部落完全解放をかちとるための不起立だ。労働者の分断をぶっとばす、怒りの不起立だ。そして自分を縛りつけている体制内の、賃労働と資本という関係の奴隷の鎖を引きちぎる闘いなんだ。みんなで不起立しよう！

不起立者の団結を求めて

不起立という原則的な闘い続けてきた人が孤立感・疎外感を感じている例があります。体制内広教組幹部の行動方針が間違っているからです。組合が不起立を「内心の自由の問題」に切り縮め、不起立するより「自分の心の中の差別意識との闘いこそ闘い」と言ったり（差別は社会の構造の問題では？　それを心の問題にするのは国家が言っていることじゃん）、一人の闘いとして不起立するのはじゃましないと言いながら（結局はいろんな手段で不起立闘争を抑圧してくるんですけどね）、不起立者を抑圧したり、孤立させたり、分断しているからだ。「差別も戦争もいやだ。それに加担する教育はしたくない」と原則的に闘う人を抑圧!?　孤立!?　そんなん組合か！　そんな組合幹部にとって変わり、自分たちこそたたかう広教組だって堂々と闘っていきます。一人の処分・解雇者も許さず、資本と非和解で闘う組合をつくる！現場労働者が団結して方針を出す。そんな組合らしい組合をつくっていこう！

11・2集会へ1万人結集しよう！みんなで行こう日々谷!!

アーリーンさんは、11・2集会に自分の組合や地域の教育労働者・保護者・学生をオルグしています。国際連帯・国境を越えた団結。それは幹部同士の形だけの「連帯」ではなく、団結しか頼るもののない血も心も通った、信頼しきった連帯・団結です。そこにどうしても連れて行きたい仲間がいます。私にとって、そして広教組を変えるのにとって、大事な大事な仲間です。オレにとって彼らの存在は決定的です。全国の全世界の仲間に会ってほしい。彼女・彼らのたたかいを、そして職場で当局と闘い始めたとき彼女・彼らと確実につながれることをそのうれしさ・展望を知ってほしい。未来にどんな世界を残すのか。矛盾・分断・差別・犠牲に満ち、戦争を必然とする新自由主義・資本主義なんか打ち倒して、実際に社会を動かしている労働者がまさに主人公となる世の中をつくろう！　そのために、私はあなたとつながりたい！　団結したい！　ともに闘いたい！

あなたは、労働者階級の決定的な一人なんです。ともに闘おうよ！　11月集会、みんなで行きましょう。そこには、労働者が本当に社会の主人公となる世界革命があります。それをともにその場で実感しよう！

ひめじょおん
―女性部から

労働学校の力で、11月労働者集会1万人結集へ！

泉州労組交流センター（準）
西村美由紀

8／6闘争に決起した関西合同労組泉州支部

今各地で労働学校が開催されています。関西でも梅田、北摂、豊中、河内、泉州、京都、奈良の7か所でやっています。梅田、河内、京都は「賃労働と資本」、北摂は「共産党宣言」、豊中は大阪府知事・橋下との対決をテーマに再出発、奈良はマルクス主義を軸に青年中心の学習会をやっています。泉州は10月から「賃金・価格・利潤」をやります。各地の状況については詳しく知らないので、ここでは泉州のワーカーズスクールについて書きます。

泉州ワーカーズスクールは今年の2月に開校し、堺市内で偶数月に開催しています。私達がワーカーズスクールを開校しようと思った理由は、関西合同労組泉州支部の階級的労働組合、動労千葉型の労働組合への飛躍、強化・拡大にあります。この時期は関西合同労組自体が「駆け込み寺」的存在をよしとし、「無料労働相談やっています」という宣伝で組織拡大をしようとしてきました。泉州支部もそんな街宣を行い労働相談もありましたが、団交をやって解決すれば、それで終わりという関係が続いていました。これを何とか突破したいと考えて開校しました。

また泉州で闘う労働運動をつくるにはやっぱり堺市内が重要ということで、ここで開催することにしました。さらに堺市を拠点としてつくるために堺周辺で闘う組合や人士にも呼びかけ、「泉州労働者交流会」を立ち上げ、これを実行委員会としてワーカーズスクールを開催することにしました。「泉州労働者交流会」は関西生コン支部阪南ブロック、南大阪の自治体などの労働者、関西合同労組泉州支部が中心になってワーカーズスクールでの学習内容や会場・交流会の設定などを取り決めています。

1～3回目は労働組合の闘いの歴史や労基法、労組法を学習しました。しかしこれらの内容は「こんな法律で労働者は守られている」「これに違反した資本からはこれだけ物が取れる」ということではなく、これらの法律は労働者が団結して流血をも辞さず闘ってきたから勝ち取れたのだということを押さえて提起しました。4回目はリクエストもあって参加している組合から取り組んでいることや成功・失敗談を語り合おうということにしました。そして次回からはいよいよ満を持してのマルクス主義講座です。

泉州ワーカーズスクールは拠点職場、拠点組合もない、青年労働者として核になる人もいない（なってほしい人はいますが）という中で出発しました。今の状況を何とかしたいと決起してくる労働者は老若男女関係なく「闘う労働組合」は新鮮で、そこで学んだことはすぐに吸収するものだということを実感しました。テーマも重要ですが、要はそれを提起する側のスタンスだと思います。

この間、労働相談で知り合った労働者が連続して参加しているのですが、彼は学習の中ではじめて知った「36協定」や「搾取」ということを即職場の仲間に話して、組合をつくろうという呼びかけを開始しています。そのことを本当にうれしそうに語るのです。「一匹狼」的で資本と喧嘩することは何もビビッていない人でしたが、今職場で仲間をつくるために奔走しています。

泉州ワーカーズスクールの参加者は低賃金労働者が多くて交流会の場の設定も大変ですが、これも重視して、マルクス主義を徹底的に学習していきたいと思います。そしてここに集まった労働者全員で11月労働者集会に参加できるように頑張ります。

労働学校に民主労総ソウル本部が参加

去る8月16日、DC会館で行われた労働学校に民主労総ソウル地域本部の仲間たちが参加した。

「資本主義とはどういう社会か」というテーマで行われた鎌倉孝夫先生の講義を受け、ソウル本部の仲間からも積極的に質問が出された。

「団結の重要性はわかるが、『労働者は団結せよ』と叫んでも、なかなか現場が立ち上がらない現実がある。また、金儲けは労働者の立場ではないということだが、生活していくために賃上げを求めなければならない。これらをどう考えたらよいのか」など、どれもわれわれが実践のなかでぶつかっている問題と同じだった。講義のあと、歓迎会が盛大に行われた。

交流会でのソウルの仲間のあいさつ

◆イジェヨン（李在栄）本部長

韓国でも『資本論』について何度も講義を受けましたが、今日はすばらしい先生から、良いお話をうかがうことができました。

田中委員長から日本の闘いについて聞きました。私は希望を持っています。困難であればあるほど、闘いを待つのではなく、自分が闘おうと思ったら直ちに闘いに立ち上がればいいからです。

これまでソウル本部と動労千葉が交流してきた5年間は、それぞれの組織でそれぞれの闘いをやってきたわけですが、昨日の8・15集会の場で私は、「一つの組織として生まれ変わりましょう」と提案しました。動労千葉と民主労総が、より主体的で確固たる精神で武装し、構造的に間違った資本家の政権を、闘いで突破するなら、真に労働者が共に生きられる国を作ることができると確信します。

同志たち。11月2日、1万人が集まって闘う姿を、ソウルにいる多くの同志たちも待ち望んでいます。1万人を実現するために、ここにいる同志たちが、今から組織化を始めてもらえればと思います。

11月集会の成功に向け、私たち労働者の、勝利を求めるその心を一つずつ積み重ねてゆきましょう。

このように歓迎してくださり、本当にありがとうございます。

◆クォンスンファ（権順花）組織局長

労働者が闘うということ、人を組織するということは本当に困難なことです。けれども私たちが、新自由主義を打倒し、戦争に反対し、一歩一歩、真の世の中を闘い取ってゆくためには、大変だけれども、労働者として闘い、組織していくことが大切だと思います。

◆Hさん（ソウルの労働運動活動家）

きょうの講義を受けて皆さんをうらやましく思いました。私が初めてマルクスと接した時の韓国は、マルクスの本を一冊持っているだけで逮捕されるという状況でした。このように公開で、すばらしい先生をお招きしてみんなで一緒に勉強できるということをうらやましいく思いました。もっとも、今では韓国も大丈夫ですが。

私はマルクスをたくさん勉強したわけではありませんが、資本が人を搾取する世の中では、誰もが幸せに人間らしく生きることはできません。そういう状況を打破するために、労働者は団結して闘うべきだと、あらためて思いました。労働者は国境を越えてひとつだ、団結できる、ということを示してくださった動労千葉の同志たちにあらためて感謝申し上げます。

身は離れていても、それぞれの闘いの現場で、それぞれの活動を闘い続けていきましょう。

次回労働学校案内

■基礎編
9月20日（土）13：00～
「資本主義とはどういう社会か」
講師　鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授・東日本国際大学教員）

■実践編
10月18日（土）13：00～
「現代日本のナショナリズム」
講師　伊藤晃（千葉工業大学教授）

●場所　DC会館（JR東千葉）

トヨタ、非正社員削減広がる

北米市場での自動車販売低迷を受けてトヨタ自動車グループの国内生産拠点で非正社員の削減が進んでいる。直近3～4カ月間で、デンソー、関東自動車工業など主要5社の削減人員数は派遣社員・期間従業員を合わせて約2300人。トヨタ自動車九州では5日、従業員の約1割にあたる8百人弱の派遣社員を契約解除した。同社の大規模な人員削減は初めて。

「カイゼンは業務」浸透

19日公表された朝日新聞によるアンケート結果によると、トヨタ自動車など大手製造業で、生産現場の従業員が集団で取り組む自主的なQCサークルなどのカイゼン活動を「業務」と認め、報酬を支払う動きが相次いでいる。

トヨタ営業利益38％減

トヨタ自動車が7日発表した08年4～6月期連結決算（米国会計基準）は、米欧での販売不振や円高ドル安、原材料価格の高騰の影響を受け、売上高が前年同期比4・7％減の6兆2151億円、本業のもうけを示す営業利益が38・9％減の4125億円だった。

米財政赤字、最悪に

米政府は28日、財政見通しを発表し、09年会計年度（08年10月～09年9月）の財政赤字が4820億ドル（51兆5740億円）で過去最大になることを明らかにした。

企業物価27年ぶりの急騰

日銀が12日発表した7月の国内企業物価指数（速報値、05年＝100）は112・0となり、前年同月比で7・1％上昇した。第2次石油ショックの余波で物価が高騰を続けていた81年1月の8・1％以来27年ぶりの高い伸び率となった。

GDP年率2・4％減

内閣府が13日発表した08年4～6月期の国内総生産（GDP）速報値は、物価変動を除いた実質で前期（1～3月期）比0・6％減、年間換算で2・4％減と4・4半期ぶりにマイナスに転じた。輸出、設備投資、個人消費が減少したためだ。

マンション販売44％減

不動産経済研究所が14日公表した7月の首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）のマンション市場動向によると、発売された新築物件は前年同月比44・5％減の3554戸と、11カ月連続の前年割れとなった。

「五つの安心プラン」

29日政府は、社会保障機能強化のためとして、09年度までに取り組む緊急対策と実施までの手順を示した「五つの安心プラン」を発表。65歳以上雇用の企業への助成制度や住宅入居費の貸与などネットカフェ難民への就労支援など。

霞が関残業、旧厚生省が最長

17日、中央官庁のうち昨年度最も残業時間が長かったのは旧厚生省という結果が、霞が関国家公務員労働組合共闘会議の調査で明らかになった。残業が過労死の危険ラインである80時間を超える人は9・3％。平均退庁時間が21時以降の人が30％、23時以降も8・6％。

年金機構「懲戒」全員不採用

政府・自民党は23日、社会保険庁で年金記録ののぞき見や保険料の不正免除などの不祥事を起こし、懲戒処分を受けた職員について、後継組織として2010年に発足する「日本年金機構」には全員採用させない方針で合意した。懲戒処分を受けた職員は867人。このほか「ヤミ専従」経験のある職員30人が今後処分の可能性。

大阪府7月退職者3倍超

橋下知事が人件費削減を進めている大阪府で職員と教職員の7月の退職者が少なくとも計33人に上り、前年同月比の3倍超に達していることがわかった。退職金5％カット実施の8月を前にした「駆け込み退職」と見られる。

納付率、2年連続減

07年度の国民年金保険料の納付率が、06年度（66・3％）に比べ2・4％ポイント低下し、63・9％にとどまったことが6日、分かった。納付率の減少は2年連続。社会保険庁は80・0％を目標にしていたが、遠く及ばなかった。

公務員改革に経済3団体トップ

2日、福田首相は国家公務員制度改革推進本部に設置する「顧問会議」のメンバーに日本経団連の御手洗会長、経済同友会の桜井代表幹事、日本商工会議所の岡村会頭の経済3団体のトップ起用の方

針を固めた。高木連合会長もメンバーに加わる。

公務員給与、ベアゼロ勧告へ

人事院は国家公務員一般職の08年度給与勧告で、月給を据え置き（ベアゼロ）とする方針を固めた。「公務員人事管理に関する報告」では、一般職の1日の勤務時間を8時間から7時間45分へ15分短縮するよう求める。

ファミレス契約店長、過労死認定

昨年10月に脳出血で死亡した「すかいらーく」の元店長（当時32）について、春日部労働基準監督署が過労死と認定していたことが17日にわかった。元店長は契約社員で、亡くなる直前の3カ月間の残業時間は月平均200時間を超えていた。

賞与6年ぶり減少

日本経団連が22日発表した大手企業の今夏のボーナス調査によると、平均妥結額は前年同期比0・08％減の90万9519円。02年以来6年ぶりのマイナス。

漂う年長フリーター

日本総研の研究員による「07年就業構造基本調査」の分析によると、15～24歳の若年フリーターは減り続けているが、25～34歳の年長組は滞留気味で、昨年初めて若年組を上回った。年収200万円以下の男性の割合は、30～34歳で7・2から8・6％、35歳から39歳で5・7％から7・3％に増加。

最低賃金初の700円台に

中央最低賃金審議会（厚生労働省の諮問機関）の小委員会は5日、08年度の地域別最低賃金の引き上げ額の「目安」を決めた。全国加重平均は時給で前年度（687円）に比べ15円程度の増加で、初めて700円を突破する見通しだ。

派遣労働、規制にカジ

厚生労働省の有識者研究会（座長・鎌田耕一東洋大教授）は28日、労働者派遣法の改正に向けた報告書をまとめた。違法派遣を受け入れた企業への新たな制裁措置を盛り込んだほか、日雇い派遣の原則禁止や同じグループ内企業だけへの派遣について上限規制を設ける方針。85年の創設以来、規制緩和を進めてきた同法の初めての規制強化。

グッドウィル廃業

日雇い派遣業界の象徴的存在だったグッドウィルが31日廃業した。派遣労働者900人の就労先がまだ決まっておらず、グッドウィルユニオンは同日本社前で抗議行動をし、雇用確保を申し入れた。

消費者物価1・9％上昇

総務省が25日発表した6月の全国消費者物価指数は、前年同月に比べ1・9％上昇。消費税率引き上げの影響で物価が上がった98年1月以来、10年5カ月ぶりの高い伸び率。

失業率4・1％に悪化

総務省が29日に発表した6月の完全失業率は、前月より0・1ポイント悪化の4・1％だった。失業率の悪化は2カ月ぶりで、1年9カ月ぶりの高水準。

人事政策に弊害、改善を

厚生労働省は22日、08年版の労働経済白書を発表した。バブル経済崩壊後、企業が導入した業績・成果主義的な賃金制度の弊害を指摘し、運用などの見直しを求めたほか、パートなどの非正規雇用の増加については、労働者の仕事に対する満足度を低下させるなど問題が多いと分析。多くの日本企業が実施し、業績回復に一役買った人事政策に、白書が疑問を投げかけた形だ。

同友会、改革後退に危機感

17、18日、経済同友会は長野県で夏季セミナーを開き、「構造改革は停滞というより後退感」と危機感を表明し、道州制問題で経団連や日本商工会議と連携していくことを確認した。

法曹増員の「減速」提言

日弁連は18日、裁判官と検察官、弁護士の資格取得に必要な司法試験の合格者を10年までに年間3千人に増やす政府計画のペースダウンを求める緊急提言を発表した。

児童虐待が過去最多

今年上半期（1～6月）に親などから殴るなどの暴行を受けたり、性的虐待を受けた17歳以下の子ども（児童）の数は前年同期比約6％増の166人に上り、上半期の統計を取り始めた00年以降、過去最多だったことが7日、警察庁のまとめで分かった。

企業、心の病「増加傾向」60％

財団法人社会経済生産性本部が12日公表した企業アンケートによると、56％の企業で社員の心の病が「増加傾向」にあると回答した。

首相、総合経済対策を閣僚に指示

14日、福田首相は二階経済産業相らと会談し、総合経済対策「安心実現のための総合対策」の取りまとめの指示を出した。

「解任･分離」断行は「解雇撤回」の死守
松崎と弁護団の４者４団体路線への転落暴く

７被告（富田被告団長）支持を鮮明に、11・２一万人へ

国労５･27臨大闘争弾圧を許さない会･会員

８月23日東京都内で「国労５・２臨大闘争弾圧を許さない会」の発起人、呼びかけ人、地区代表者会議が開かれた。「許さない会」は、本年２月以降事実上「凍結」状態であった。事の発端は、富田団長以下７被告が佐藤昭夫弁護団長・一瀬敬一郎主任弁護人ら全員を解任（２月22日）したため、「許さない会」の事務局長でもある佐藤氏との間に対立が生じたからである。その底流には国鉄１０４７名闘争から「解雇撤回」を投げ捨てる４者４団体に抗して、被告団が原則を守り闘い抜いている事実がある。この闘いと路線をを支持するか否かが問われ、分岐となった。特に、身近な人に極めて鋭く。

会議では、被告、国労共闘は当事者としての責任を担い先頭で勝利を切り開いた。自らの絶対的な正義を実証し、国鉄決戦勝利の道を示し、松崎被告を支持する全勢力を圧倒した。第二次国鉄決戦の主役に躍り出た。各地の許さない会は熱烈に７被告を支持した。

以下の文書は、７被告の苦闘と、原則を守り抜き新たな船出をした勝利感に溢れている。

旧弁護団解任・弁論分離の正しさと新たな裁判闘争の出発（抜粋）

２００８年８月23日
国労５・27臨大闘争弾圧被告団
富田益行（近畿地本兵庫保線分会）以下６名

７月14日の鉄建公団訴訟控訴審で東京高裁・南裁判長が、裁判外での和解を提案した。15日には冬柴国土交通相が「誠心誠意、解決に向けて努力する」との談話を出し、17日には４者４団体が「誠意をもって交渉に応ずる」と表明した。

国労本部と４者４団体の一部指導部は、７月30～31日の国労大会で、「裁判所からの『提案』を受け入れる」と屈服和解を全面的に推進することを宣言した。しかも、国労共闘や闘う闘争団員が国労本部と４者４団体の屈服和解に抗議するや、彼らは警察権力を大会会場内に引き入れて「５・27弾圧の再現」を狙うという許しがたい策動に走ったのだ。国労共闘は、これと対決して、屈服和解粉砕・本部打倒の闘いを貫徹した。

国鉄１０４７名闘争は、分割・民営化以来の闘争史上最大の決戦に突入した。この重大局面にあたり、私たち国労５・27臨大闘争弾圧被告団は、国鉄闘争の血と汗の歴史のすべてを背負い、１０４７名闘争の屈服和解を拒否し、国労本部打倒・１０４７名解雇撤回、ＪＲ体制打倒の先頭に立つ。

Ⅰ　私たちの裁判闘争方針は松崎被告人・同弁護団の方針と全面的に異なっており、弁論の再併合など絶対にできない

（１）私たち７被告人の裁判闘争方針がどのようなものであるかは、８月１日の公判での富田被告人への被告人質問において全面的に明らかにされた。

それは、一つは、公判廷においても完全黙秘を貫くということであり、もう一つは、４者４団体路線を徹底的に批判し、国労本部打倒を絶対にかちとるということである。

（２）公判廷においても完全黙秘を貫くことについて。

（３）４者４団体路線を徹底的に批判し、国労本部打倒を絶対にかちとることについて。

４者４団体路線とは、本件５・27臨大闘争弾圧で私たちを警察権力に売り渡した国労本部を引き入れる一方、解雇撤回闘争をＪＲ資本との闘いとして正しく位置づけてＪＲの安全の崩壊を突いて闘う動労千葉を排除する政治和解路線である。

私たちは、この４者４団体路線を全面的に批判し、国労本部を打倒するまで闘う。

Ⅱ　旧弁護団解任と弁論分離の事実経過について

言うまでもなく国労５・27臨大闘争弾圧粉砕闘争の主体は、国労の屈服と腐敗、１０４７名闘争の危機に対して立ち上がり、不当弾

圧を受けた私たち被告人である。弁護人の役割は、あくまでも被告人の立場に立って、専門家として被告人を支え、ともに闘うことにあるはずだ。

旧弁護団解任問題はきわめて単純明解だ。旧弁護団が、私たち被告人の意思を尊重せず、私たちの依頼人としての要求を拒否し続け、信頼関係を自ら破壊した。だから、旧弁護団は解任されたのである。このことに尽きる。

旧弁護団は「被告人は弁護士の言うことを聞いていればいいのだ」と、被告人を裁判の主体として、自己解放の主体として認めてこなかった。だから、私たちの積年の怒りが爆発したのだ。

（1）裁判事務局員・米村氏の解任（2007年11月）

（2）旧弁護団の解任（2008年2月）

（3）松崎被告人との弁論分離（2008年3月請求、5月決定）

国労5・27臨大闘争弾圧は、国労本部が私たちを警察権力に売り渡すことで、国家権力が「暴力事件」としてデッチあげた事件である。したがって、国労本部に対する姿勢と評価が裁判方針の基本になることは明らかである。この点で、私たち7被告人と松崎被告人との間に決定的な対立が生じ、弁論分離が不可避となったのである。

①松崎被告人は、国労本部が2006年12月、鉄道運輸機構に対し解雇撤回・原職復帰を求めず、損害賠償のみを請求した訴訟を提起するや、これを評価する立場を表明した。

この訴訟は、鉄建公団訴訟原告団等を本部方針のもとに従わせる悪辣な意図をもったものであった。ところが、松崎被告人は2007年1月から2月にかけて、この国労本部の意図を暴露し、国労本部訴訟を批判する私たちを「腐り果てた姿」などと非難するビラを大衆闘争の現場で繰り返し配布した。松崎被告人は今日的には、国労本部が主導する動労千葉を排除した4者4団体の政治解決路線を支持する立場をはっきりと表明している。

松崎被告人は動労千葉・関西生コン・港合同の3労組呼びかけの2007年11月労働者集会への参加を拒否し、国労本部ら4者4団体が主催する11月30日の集会に参加した。さらに松崎被告人は、羽廣被告人を「盗人」（全くの事実無根！）呼ばわりし、「革共同の7被告」と私たちを権力に売り渡す声明を出した（2008年2月）。そして、5・27弾圧を「本部執行部が政府権力に利用され、労働者を権力に売ることを強制され」たものという国労本部を免罪し擁護する声明を出した（2008年4月）。

この両者がまったく相容れないことは明らかである。

②松崎弁護団は、このような松崎被告人の言動に対する批判をいっさいせず、パンフレット形式の『弁護団声明』（6月6日付）で、「鉄建公団訴訟原告団は、国労本部の屈服路線を抑えようとした」（6ページ）と4者4団体路線をなにひとつ批判せず容認している。そればかりか、「1047名闘争がそう〔1047名の団結した共闘に〕ならなかったというのは、残念なことである」として動労千葉が「解雇撤回の原則」を堅持して、4者4団体陣形に入らなかった方が間違いなのだと言わんばかりの見解を示した。

③1998年5・28東京地裁反動判決に屈服した国労本部が2000年5月の4党合意の受け入れに行き着いたように、鉄建公団訴訟の2005年9・15判決に屈服した原告団一部指導部等が4者4団体路線を生みだしたのだ。

私たちは9・15判決を反動判決であると断言する。だが、松崎被告人と同弁護団はこれを「歴史的成果」と評価する。この意見の対立は絶対非和解である。

9・15判決は、解雇撤回を拒否し、1人あたり500万円の慰謝料を認めただけのものである。しかも、国鉄時代に停職6ヵ月以上または停職2回以上の処分を受けた者などはJR不採用になって当然だとした反動判決だった。これは動労千葉と本州の闘争団の徹底排除を狙ったものだ。今年3月13日の鉄道運輸機構訴訟の東京地裁判決は、解雇撤回を求めた原告の訴えを、時効を盾にことごとく退けた。

にもかかわらず、4者4団体路線を推進する者たちは、7・14東京高裁和解勧告に依拠して、「最後の機会」とばかりに屈服和解に身をゆだね、1047名闘争解体・国労解散の坂を転げ落ちている。

（以下略）

たたかいは進む

たたかう労働組合の全国ネットワークをつくろう！
改憲-戦争と民営化-労組破壊にたち向う労働者の国際的団結を！

11・2全国労働者総決起集会への賛同と参加のお願い

全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部
全国金属機械労働組合港合同
国鉄千葉動力車労働組合

全国のたたかう労働者の皆さん！

労働者の団結した力が時代の最前線に登場しなければいけないときが来ました。

吹き荒れる新自由主義の激しい攻撃が全世界で労働者人民を深い眠りから呼び覚まそうとしています。世界中で、首切りや賃下げ、民営化攻撃に対する津波のようなストライキの嵐が轟いています。食料暴動や民族解放の闘いが燃え広がっています。韓国では、百万人のデモが街頭を埋め尽くし、民主労総の仲間たちがゼネストに立ち上がっています。アメリカでは、ＩＬＷＵの仲間たちが、イラク戦争に反対して西海岸の全ての港を止めるメーデーストに立ち上がりました。日本でも怒りの声は社会の隅々まで満ち、とくに「ワーキングプア」という現実に突き落とされた青年たちが闘いにたちあがりはじめています。「蟹工船」ブームや、この間の漁民ストは、怒りの声が巨大なマグマとなって吹き出そうとしていることを示しています。新自由主義攻撃の中で後退を強いられてきた労働運動がいよいよ荒々しく復権しようとしています。

「競争原理こそ万能」「企業活動に無制限の自由を」という掛け声のもとに推進された新自由主義政策は、全世界に貧困、飢餓、格差を蔓延させました。民営化、規制緩和、労組破壊攻撃の中で、無数の労働者が非正規職に突き落とされ、社会保障制度や教育が崩壊し、イラク―グルジアと続く戦争の危機が生み出されています。

バブルとその崩壊を繰り返してきた20年余りの世界経済の異常なあり方がついに限界に達し、アメリカでのサブプライムローンの破綻以降、行き場を失った投機資金が原油や穀物価格をつりあげ、全世界で激しいインフレと大不況が同時進行しています。これは資本主義体制が行き着いた腐れ果てた最後の姿です。

日本経済もついにマイナス成長に転落し、福田反動政権は倒壊寸前です。一方こうした現実が、２百万公務員労働者への民営化―首切り攻撃、社会保障費のさらなる削減、大増税等、より一層激しい労働者への犠牲の転嫁や改憲と戦争に向う政治反動を呼びさまそうとしています。

求められているのは闘う労働運動を復権させることです。私たちは本年の11月労働者集会に向けて三つのことを訴えます。

第一に連合や全労連の屈服を突破する現場からの反乱を組織することです。ヨーロッパを覆うストライキの波は「08賃金反乱」と呼ばれています。インフレに火がつき、無数の労働者が「生きさせろ！」という声をあげている状況の中で、非正規職撤廃、生活防衛、大幅賃上げ獲得、最低賃金引き上げを求める怒りの声を結集しなければなりません。私たちは09春闘に向けて、「ゼネストが必要な情勢だ！ 闘う労働運動を復権させよう！」という訴えを全国に発信します。

第二に、国鉄１０４７名の解雇撤回闘争を先頭に、民営化―労組破壊と、改憲―戦争に立ち向かう全ての労働者の怒りの声を結集することです。１０４７名闘争は正念場を迎えています。私たちは、「解雇撤回」を引き下ろし、動労千葉を排除して進められようとしている「４者・４団体」による「政治解決」に絶対に反対します。１０４７名闘争は全ての労働者の権利と未来をかけた闘いです。

第三に、５年間積み上げてきた労働者の国際連帯闘争を大きく発展させることです。今ほど万国の労働者の団結した力が求められているときはありません。

この一年、私たち三組合は、労働運動の再生をめざして闘いを積み上げてきました。連帯労組関西地区生コン支部は大弾圧をはね返して産別政策闘争の画期的な地平を守りぬいています。港合同は「団結こそ命」を掲げて中小零細企業に働く仲間を地域で組織し、倒産・解雇攻撃と対決して闘いぬいています。動労千葉は原則を貫いて一〇四七名闘争や反合理化・運転保安確立、組織拡大の闘いを貫いています。

私たちは昨年の11月労働者集会で、「職場から闘いに立ち上がり、全国に闘う労働組合の共同センターや労働学校を網の目のように組織しよう」というアピールを発信し、今こそ全国で職場・地域から闘う労働運動再生への火の手をあげようと確認しました。この訴えは、各地の仲間たちの手によって具体的な形となり、全国で20箇所近い労働学校が開催されるという大きな成果を生み出しています。今なによりも求められているのは、不一致点は留保し、一致点を拡大して闘う労働組合の全国ネットワークをつくりあげることです。労働者が団結を取り戻し、労働組合を甦らせることです。自らのもつ力と可能性を自覚し、誇りを取り戻すことです。

私たちは、本年の11月集会を、自らの飛躍をかけた闘いとして全国の仲間たちに呼びかけようと討議しました。渦巻く怒りの声をここに総結集し、労働者の団結した闘いこそが、歴史をつくり、社会を変革する力だと宣言しよう。志を同じくするすべての皆さんの賛同と参加を心よりお願い申し上げます。

２００８年８月

●集会名称　「たたかう労働組合の全国ネットワークをつくろう！　改憲・戦争と民営化・労組破壊にたち向う労働者の国際的団結を！　11・2全国労働者総決起集会」

●と　き　11月2日（日）　正午開会

●ところ　東京・日比谷野外音楽堂

たたかう俺たちが支部執行部だ

8・30東京銀座支部役員選挙立候補者

支部長候補　星野　勝紀

組合員のみなさん。

8月30日の支部統合大会は実に異常な事態の下で行われようとしています。現場の組合員から一切の投票権を奪った上で、新しい支部執行部をつくろうとしているのです。8月30日に集められた50人の大会代議員の投票だけで20人の執行部を選ぶというのです。組合員の一票投票によって支部役員を選ぶという当たり前の俺たちの権利が、平然と破られるのだ！　組合民主主義の最も大切なことが公然と破られるのだ！　60年間、俺たち現場の組合員が守りぬいてきた組合民主主義・現場民主主義が破られようとしているのだ！

私たち4人は、民営化に賛成した現執行部の暴挙を断じて許さない！　糀谷体制は、絶対に認められない！　おかしいことはおかしいと言うことのできる支部にするために、今回立候補しました。

「職場の主人公は労働者だ」「組合の主人公は現場の組合員だ」――このことに立ちきった支部を作っていきたい。全ての組合員のみなさん。共に闘おう。

労組交流センター全逓部会を先頭に会場包囲デモ（6月18日　JP札幌大会）

民営郵政の破綻は誰もが知っている

07年10月1日からスタートした民営郵政は、すでに破綻しています。東京中郵の廃局・銀座移転で分りやすくなりました。東京中郵廃局絶対反対の超勤拒否が現場から闘われる中で、5月7日、東京中郵は廃止され銀座移転を迎えました。当局は、机上の計算で打ち出した統廃合後の、配達シミュレーションの破綻の責任を現場労働者に押し付けています。その中身は、本務者の欠員の穴埋めも無く、たらい回しの局内異動が大規模に行われ、さらに日逓の請け負い配達が導入されましたが、要員不足による超勤は増える一方ということです。2ヶ月で80時間を越える超勤も発生しています。

この実態を無視して、当局の言っていることは、「超勤が多すぎる」「減らす努力をしなさい」ということです。そもそも人がいないんだ！　普通は、仕事が忙しくて終わらないから残業というのでしょ？　明日も集荷に行く人がいません。人が入らなかったら、明日も明後日も永遠に超勤が続くということです。こんなおかしなことはありません。

当局は矛盾を抱えながら、それでも生産性を上げろと言っています。それが意味することは、民営郵政の生き残り策としての、人員削減を至上命題とする方針の押しつけです。当局は徹底して、現場に強労働を押しつけ、「超勤が多いのは、お前らの働きが悪いからだ」と言うのです。この中で、正規、非正規の分断が行われているのです。破綻の責任は現場の俺たちには一切ありません。敵は当局です。ゆるせないことに、この状

“全逓労働者はこれから反撃を始めるぞ！”出動してくる労働者とビラまき隊に闘いの気運と開放感が広がる（5月7日　東京・銀座局前）

況にさらに追い討ちをかけているのが、ＪＰ労組中央本部と、それにつき従う支部執行部です。

闘わない組合幹部は現場の敵だ！

ＪＰ労組中央本部は、民営化の破綻を現場組合員の総力で取りつくろえと言っています。今年の５月30日に出された日本郵政の決算（07年10月～08年３月）では、日本郵政グループとして２７７２億円の黒字ですが、郵便事業の６９４億円は、計画の７割です。当局と一体となった組合本部は、事業の成長発展として２４０００人の削減に協力し、出向・転籍のルール化＝協約化、作業の機械化、外部委託、日通との事業統合（ＪＰエクスプレス株式会社）を見すえた「ゆうパックセンターの拡大」と宅配便事業の統合など、合理化で命を削るような労働によって民営郵政を支えろと言っているのです。こんな本部方針に従っている限り、本務者の減員と非正規化、極限的な強労働、慢性的な超勤による過労死、殺人的な深夜勤の拡大、労働災害、心身の破壊、労働者の生活破壊はさらに拍車がかかる一方です。

今の執行部は、口を開けば「組織決定だ」と開き直っています。しかし、現在の職場の大混乱は、執行部の言う「組合決定」によって引き起こされているのです。

組織決定とは、現場組合員の利益になるべきものであって、組合員を裏切って、当局にすり寄るような組織決定は間違です。現場の利益を代表した支部執行部を確立すれば、中央本部を打倒して闘う労働組合を取り戻すことは可能です。

東京銀座支部の組合員のみなさん。あなたたち一人ひとりが組合の主人公です。共にたたかい、当たり前の労働組合を作ろうではありませんか。

Photo Document

2008年7月～2008年8月

４者・４団体路線を許すな！

7・30　静岡

伊東市で開かれた国労第 76 回定期大会は本部のみならず 1047 名闘争の解体にカジをきったことをつきだした。これに対して５・27 臨大闘争弾圧被告団を先頭に屈服和解策動粉砕を訴えるビラ配布を貫徹した。

福田政権打倒！

8・9　長崎

長崎に原爆が投下された午前 11 時２分、平和公園にさしかかった「8・6 広島－8・9 長崎反戦反核闘争全国統一実行委員会」のデモ隊は、福田の出席している祈念式典に向けて激しい怒りの声をあげた。

「蟹工船」の精神よみがえる！

8・15　東京

戦後 63 周年の８月 15 日、なかのＺＥＲＯで開かれた『「蟹工船」2008 －国益と排外に憲法は屈するのか』と題した 8・15 集会に、午前中の靖国闘争を引き継ぎ 580 人が結集し、11 月１万人結集へ決意を固めた。

月刊 交流センター　2008年9月号　No.222　定価300円（本体価格285円）

全国労働組合交流センター　東京都台東区元浅草2-4-10　五宝堂・伊藤ビル5F　URL:http://www.k-center.org
TEL 03-3845-7461　FAX 03-3845-7463　郵便振替口座／00150-9-408647　E-mail:centergo@nifty.com

発行人／中野　洋　入江　史郎　　編集人／井上　長治